

住人十色

第 127 回

全国大会優勝は剣詩舞道の最初的一步 さらなる高みを目指し、舞い続ける――

石尾 怜^{れい}楽^らさん(大瀬中1年)＝川登＝



◎制服から紋付き袴に着替えると表情が一変。「気持ちが悪く」と引き締まる」と話す石尾さん。稽古場のうちこ福祉館で

紋付き袴姿で扇子を持ち、しなやかな舞いを見せる石尾怜楽さん。10月6日、千葉県で開かれた「日本コロンビア剣詩舞コンクール全国決戦大会」で見事、初優勝を飾りました。現在は4月から始まる「全国剣詩舞コンクール高知大会」に向け、さらに技術を磨いています。

始めたきっかけは「和の雰囲気が好きで、面白そうだったから」とのこと。小学5年生のときに剣詩舞に出会い、伝統的な舞に魅了されたそうです。部活動と両立しながら、週1回の稽古を続け、初めて手にした栄冠。「うれしかった」とあけない表情を一瞬だけ浮かべますが、「目標は高知大会と四国大会で優勝し、全国に行くこと。手の高さや腰の位置など直すことがまだまだあるので、練習を重ねて改善したい」と気を引き締めます。指導する宮岡貴子^{たかこ}さんは「楽しい剣詩舞もあるけれど、石尾さんが本気で上の大会を目指すことを選んだ。厳しいけれど頑張つて」とエールを送ります。石尾さんは「きれいに舞うだけでなく、『詩心』をとらえて表現することが大切。次は高校生も一緒に大会なので、表現力の違いを学びたい。いつか先生のように舞えるようになるまで、ずっと剣詩舞を続ける」と目を輝かせました。

編集 幸記

▽先日、久しぶりに小田の「どい書店」に行つて驚きました。店先に転がた、たくさんさんの自転車と道まで響く子どもたちの元気な声――。昔懐かしい感じで、ふるさとを思い出しました。高橋旅館の雛飾りと合わせて、ぜひ見に行つてほしい(裕)▽「子どもマラソン大会」を取材。最後の一人がゴールするまで声援を送る子どもたちの姿に感動しました。「マラソンは自分との闘い」と言われますが、ラグビー日本代表にも負けないワンチーム精神を感じました(航)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

